

翌檜 ～習慣は力なり～

旭川永嶺高校
進路指導部通信
令和6年9月24日
1, 2年次版 第3号
(文責 宮前 貴英)

こんにちは。進路指導部のみやまえです。主に3年生を担当しております(1年生の授業も少々)。みなさんとの関わりは少なめですが、進路室にいますので気軽にお声かけください。

さて、突然ですが、この時期に是非考えてほしい、こんな話をします。

推薦入試・総合型入試ってどんな入試？

大学入試は大きく一般選抜、学校推薦型選抜、総合型選抜の3つに分けられます。ここでは、そのうちの推薦型と総合型選抜試験について説明します。

国公立大学の場合、**総合型選抜**(かつてはAO入試と言っていた)という試験がまずあります。**受験生の適性や志望動機を重視し**、かつアドミッションポリシー(入学者受け入れ方針、AO)に則した選考基準を満たす受験生を選抜するもので、出願が9月以降(合格発表が11月以降)、試験は主に**面接や小論文**(筆記試験を課すところもある)です。また、**学校推薦型選抜**は出願が11月以降(合格発表が12月以降)で、**校長先生の推薦を受けることで受験できる入試**(こちらも面接+小論文が主)です。どちらも一般入試が1月(共通テスト)から2, 3月(2次試験)なのに比べると早いスケジュールで行われるのが特徴です。

私立大学の場合も国公立とほぼ同様(スケジュールは国公立より早め)ですが、推薦型は「**指定校推薦**」と「**公募(一般)推薦**」の2種類があります。前者は**大学から推薦枠が高校に割り当てられ、条件に合致した人は入学が認められます**(ただしハードル高め)。後者は国公立推薦とほぼ同様です。国公立・私立大とも各大学の推薦型・総合型の募集定員が年々増加していて、つれて本校生徒の志望も増えてきています。



では、推薦型・総合型が向いている人・向いていない人はどんな人か？

推薦型・総合型に向いている人は**目的意識があり、熱意と論理力を兼ね備えている人**です。

大学の面接官は、何十人何百人と次々に受験生を評価しなければならないため、「部活動で主将を務めた」「ボランティア活動をした」などの話は山ほど聞きます。肝心なのは実績を並べ立てるのではなく、**活動の目的は何か、その経験から何を得たのか、将来にどう生かせるかを自分の言葉で熱意をもって論理立てて説明できること**です。コミュニケーション能力が秀でている人は更に優位になります。

一方で、**入りやすいと気軽に考え、基礎学力がない人は推薦型・総合型には向いていません**。

推薦型や総合型というと何となく入りやすいイメージ(実際はそうではない)を抱いて、気軽に受けようとする人がいますが、そのイメージがあるために、対策が甘くなりがちです。また、国公立大では総合型・学校推薦型とも**共通テストの受験を課す**大学があります。基礎学力がない人はこれらの受験には不向きです。さらに学校推薦型は、定期考査の結果や平常の学習評価などをもとにした**評定(平均)**を出願条件にしているため、やはり基礎学力が必須です。一定の学力がないと大学で困る、という入試の本来の趣旨をよく理解しましょう。

(ウラにつづきます)

(つづき)

さて、どうしてこのような話をしたのか？

最初に触れたとおり、総合型選抜の出願が9月、学校推薦型選抜は出願が11月（私立大は10月）です。3年次の先輩方は今まさに出願に向けた動きが活発になっています。ある意味張り詰めた空気が漂っています。

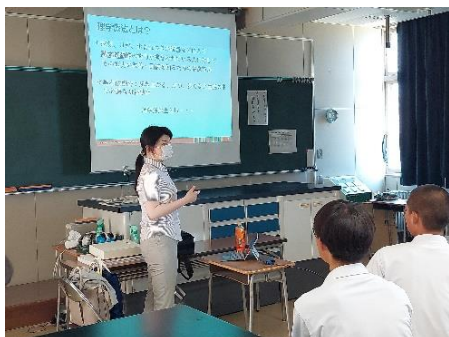
出願が9月ということは、**1年次・2年次の成績がモノを言う**だけでなく、将来の目標を早い段階で設定したうえで、**1年次・2年次のうちに実績をつくって**おかないといけません。3年次になって急に〇〇大学の推薦を、と言ったところで実績も何もなければ受験資格すらもらえません。

期末考査が終わってホッとしているところかもしれませんが、ここからしばらくの緊張感のやや薄れた時期（2年生は見学旅行もあるよね）こそ、自分の将来の進路について真剣に考える機会にしてください。

7～8月の1，2年進路イベントのまとめ

各行事の様子を画像にて

大学出前講座（2年次：7／18） *志望校選びの参考になったかな？



職業セミナー（1年次：7／23） *将来の仕事のイメージをつかめた？



旭川市立大学・北海道教育大学旭川校体験（1，2年次：8／20）

*自分の進路実現に向けた第1歩になった？

